

令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「 ひなんはとつぜん 」

石川県 金沢市立小坂小学校 2年 ^{すぎもと}杉本 ^{けんたろう}賢太郎

8月28日。きた九しゅうに大雨がふりました。町が水びたしになって、ヘリコプターできゅうじょされているニュースをテレビで見ました。びょういんもボートがないとちかづけず、大へんなことになっているなと思っていました。

その2日ごの8月30日。金ざわでもずっと雨がふりつづけていました。べんきょうのじかんだったので、ドリルをやっていました。すると、しえんいんさんがあわてたようすで、「土しやさいがいけいかいじょうほう、けいかいレベル4そうとうがはっぴょうされました。学どうがあるばしょは、さいがいけいかいいくいきに入っています。これからひなんするかもしれないので、おちついてまっけてください。」と言われました。ぼくはとつぜんのことにおどろいて、きた九しゅうのニュースを思い出し、こわくなりました。1年生の女の子は、ふあんになってなきだしてしまいました。

そんな時、パパやママからいつも言われている言葉を思い出しました。パパやママがそばにいないときにさいがいがおこったら、小学校に行くことです。パパかママがかならずむかえに行くから、そこでまっけているように言われています。でも、これまでひなんすることがなかったのも、こんなにとつぜんひなんするようなことがおこるのかとドキドキしました。しばらくして雨がよわくなりひなんはしなくていいと言われて、ぼくはほっとしました。

いつさいがいがおこるかわかりません。そんなときにパニックにならないように、かぞくがひなんするしゅうごうばしょをかくにんして、まずじぶんのことはじぶんでまもることが大じだと思いました。